

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600014		
法人名	有限会社 コミュニケーション		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	徳島県三好市井川町西井川375番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成24年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が共に野菜作りや収穫を行い、食事やティータイムに出し季節を感じていただいている。利用者のできる範囲で家事を職員と共に行うことで、笑顔や生き甲斐をもって暮らしていただいています。誕生会や季節の行事には利用者に多くの笑顔が見られるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の笑顔を引き出すためには職員自身も笑顔で対応することが大切だと捉えて取り組んでいる。生活のなかに音楽や体操を多く取り入れることで、利用者の表情を豊かにする取り組みを行っている。楽しく生活するうえで利用者一人ひとりの持てる力を最大限に引き出すよう、声かけを多くしたり、時間をかけるなどの工夫を行ったりしている。また、婦人会の歌と踊り、阿波踊り連の来訪、地域の保育所の子どもたちとの七夕まつりやクリスマスの交流のほか、事業所の菜園での植え付けや収穫の手伝い等、地域の事業所として協力が得られる体勢を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、申し送りや職員会議の際、理念について再確認しながら、よりよい方向に実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。また、理念の実現可能性を高めるため、分かりやすい基本方針を掲げている。毎朝の申し送り時に、利用者も加わって理念と基本方針を唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所に七夕に来ていただいて交流をもっているが、今年はクリスマス会に来ていただけるよう計画中です。	散歩時に、地域住民と挨拶を交わしている。事業所の菜園では、野菜の栽培方法を教えてもらったり、芋掘り等の収穫時に手伝ってもらったりしている。地域の婦人会による歌や踊りなどの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話での相談はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や行事等の報告を行っている。出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況やサービスの実際、評価への取り組み等の報告を行っている。出された意見や要望、地域行事等に関する情報等は、職員会議で話しあって具体的に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月次報告を担当窓口へ提出している。介護保険制度改正等の相談をしたり、助言をしていただいている。	市担当窓口へ月次報告を持参する際、事業所の抱える課題等について相談を行い助言を得ている。また、事業所から市担当者へ要望を伝達するなどして、保険者と連携を図りつつサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を全職員が正しく理解できている。落ち着いた利用者には見守り、居場所の確認を徹底している。	身体拘束倫理規程を作成している。規程に基づく職場内研修を実施し、全職員で身体拘束の弊害に関する認識を高めている。職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで相互に気づいたことを話しあっている。利用者やゆっくりと向きあう時間を多く設けるよう心がけ、見守りを徹底することで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会など話し合いの場を設け、虐待を見逃すことがないように職員間での連携も重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施し、職員一人一人が理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を設け、不安や疑問が解消できるように説明し、理解してもらえるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を十分に聞き、繊細な事でも運営に反映できるよう努めている。	職員は、家族の来訪時になるべく多く話しかけるよう配慮し利用者の近況を報告している。家族が意見や要望等を表出しやすいよう、職員は雰囲気づくりに留意している。遠方等の理由により、事業所への来訪が困難な家族には、お便りを送付したり、請求書の送付時に意見の記述を促したりして、双方向的にやりとりを行う仕組みを構築している。家族から出された意見や要望等は、運営推進会議や職員会議等の機会に話しあって運営面へ反映している。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りノートを通して意見や提案を出し合い、反映させている。代表者は職員の意見を重視してくれている。	代表者は、頻繁に事業所を訪れており、積極的に利用者や職員と接している。日ごろから、代表者や管理者、職員は、話しやすい関係を構築している。毎日の申し送りノートや職員会議等で意見や提案を出しあって運営面へ反映している。職員の意見を運営面に取り入れる体制を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の話に耳を傾けてくれ意見を反映してくれている。健康面にも留意し、定期的に健康診断を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格習得に向けた取り組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学する機会を作っただけ交流を持てることができ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族が事業所見学をされる時には、本人にもできる限り一緒にきていただき、家族の意向だけでなく本人からの意思や意向を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談にこられた時に、本人の状況や今までのサービスの利用状況などをお聞きして、事業所ができることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられよう必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活のなかで、利用者に積極的に話しかけ、言葉の由来やことわざ、地域の習わしなどを利用者から学ぶようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況を報告し、家族の希望を聞き利用者の望む暮らしを、家族と共に支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に家族と出かけたり、知人や友人の面会や電話などで話をし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	利用者の友人や知人の来訪が多く、電話をかけてくれる人もいる。利用者は、行きつけの理・美容院へ出かけたり、墓参りや知人宅を訪問したりしている。お盆や正月に帰宅する方もおり、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう、家族の協力を得たうえで支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が楽しく参加できるようなレクリエーションを行い職員、利用者同士が関わり合えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり関わることができるよう時間をとり、利用者の思いを把握するよう努めている。	利用者一人ひとりとゆっくりと関わることで、思いや意向を把握するよう努めている。自分でできることはなるべくしてもらおう努め、見守りを中心とした支援を行っている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得たり、日ごろの利用者との関わりのなかで言葉や表情等から意向を把握したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、利用者や家族から十分に情報を収集するように努めている。入居後は、その都度本人や家族からこれまでの暮らしの情報をえている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取、排泄、睡眠状態を記録し、利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人、家族の希望や意見を把握し職員全員で意見を話し合い介護計画書を作成している。	利用者一人ひとりの担当制をとっている。日ごろの利用者や家族との関わりのなかから思いや意見を把握し、医師等の必要な関係者と話しあって介護計画書を作成している。3か月に1回、計画の見直しを行っている。全職員で、意見交換やアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録に日頃の状況を記入し、ミーティングで共用してケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を生かし、利用者や家族が希望することに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	涼くなって戸外に出る機会が増えてきたので施設周辺のゴミ拾いなどができるよう計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望を重視し、入居前からのかかりつけ医の受診ができるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得たうえで、定期的な通院や往診等を支援するなど、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制を整備している。協力医療機関と密に連携を図って緊急時の往診体制を構築し、利用者が安心して暮らすことができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が勤務しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い関係者から情報収集を行うとともに、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から、家族と話し合いの機会を設け、事業所にできることとできないことの説明を行っている。事業所による支援が困難な場合でも、家族や医療機関と話し合いを行い、受入先が決まるまで支援を継続している。	入居時の段階で、事業所のできる最大のケアの範囲について説明している。利用者の体調や状態変化に応じて、家族や医療機関等の関係者と連携を図り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時に備えている。玄関にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、災害時には近隣の方からの協力がえられるように依頼している。	年2回、消防署の協力を得て夜間を含めた災害時の避難訓練を実施しており、地域住民の参加もある。地域住民へ災害時の協力依頼を行っている。地域の自主防災組織の行う訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りなどで話し合い利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	職員会議や申し送りの際、利用者の誇りや尊厳を傷つける行動や態度をしていないかについて職員間で話しあっている。利用者が自己決定しやすいよう、さりげない言葉かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと利用者に関わりを持ち、その方の思いをひきだせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の望む理・美容室でカットや毛染めなどを行っている。また、定期的に美容師の来訪がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物を提供し、食事から季節感を感じてもらえるように努めている。また、ひばり農園で採れた新鮮野菜を使って季節料理を作ったり、手作りのおやつでおやつ時間を楽しんでもらっている。	週2回、利用者と相談し、事業所の菜園で収穫した旬の食材を用いて季節の料理やおやつを作っている。利用者は、一人ひとりの力量に応じて、野菜の皮むきや筋取り、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は、カロリージュースなどをのんでいただいたり足りない栄養をとれるよう支援している。水分摂取量は記録していないが、こまめに水分摂取をしている。夏場は夜間も水分補給をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や必要時に歯科検診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツを使用せず利用者ひとり一人の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。夜間も声かけ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の自尊心に配慮しつつ、トイレでの排泄を支援している。夜間にオムツを利用している人には早めのオムツ交換やトイレ誘導を行い、安心して眠ることができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や生活運動に配慮し、便秘予防に努めている。水分を多く摂ってもらっている。排泄表の記録により排便状況を全員が把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるように、その日の体調や気分に応じた入浴の支援を行っている。また、リラックスして入浴できるように一人ずつ入浴している。	利用者との関わりの時間を多くもつことができるよう、午前中を入浴の時間としているが、希望に応じて入浴することができる体制を構築している。入浴を拒む方には、日にちを変えたり、声かけを工夫したりして、少なくとも週2回は入浴することができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠のある方には、日中できるだけホールで活動してもらえよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルにまとめ、必要な時にはすぐに確認ができるようにしている。また、主治医との連携も密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たみ等は日常生活の中に取り入れている。また、天気の良い日には、外気浴や散歩などに出かけ、気分転換を図ることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば家族の方と外出したり、お墓参りに行ったり、お見舞いに行ったりすることができるよう支援している。春と秋にはバスに乗り全員で遠足に出かけている。	天気の良い日には、散歩を楽しんだり菜園で野菜の収穫を行ったりしている。家族の協力を得たうえで、墓参りやお見舞い、馴染みの理・美容院、買い物へ出かけている。また、春と秋には、利用者全員で遠足へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる人がほとんどなく、金銭を所持できないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話や手紙でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた飾りつけや観葉植物をおいている。また、空調により、快適な温度を保って居心地よく安心して生活が送れるよう配慮している。	共有空間には、観葉植物や季節の花を飾っている。また、壁面には、利用者とともにつくった貼り絵等を掲示しており、季節感のある空間となっている。台所からは、調理の音や匂いが流れてきており生活感を感じることができる。利用者は長椅子や机を囲んで談笑したり、ゲームや昔懐かしい歌を歌ったりして、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下などにソファを設置し、一人でゆっくりすごしたり、気の合った者同士が過ごせる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、本人や家族に使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。また、本人の状況にあわせて居室でリラックスできるように配慮している。	利用者一人ひとりの要望に応じて、ベッドと布団を使い分けている。利用者は、使い慣れた家具や家族の写真等を持ち込んでおり、一人ひとりが安心して過ごすことのできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の際には、声かけや付き添い介助を行い、安全に生活が送れるよう配慮している。建物内はバリアフリーになっていて、手すりも多く設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、申し送りや職員会議の際、理念について再確認しながら、よりよい方向に実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育所に七夕に来ていただいて交流をもっているが、今年はクリスマス会に来ていただけるよう計画中です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話での相談はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や行事等の報告を行っている。出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月次報告を担当窓口へ提出している。介護保険制度改正等の相談をしたり、助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を全職員が正しく理解できている、落ち着かない利用者に対しては見守り、居場所の確認を徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会など話し合いの場を設け、虐待を見過ごすことがないように職員間での連携も重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施し、職員一人一人が理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を設け、不安や疑問が解消できるように説明し、理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を十分に聞き、繊細な事でも運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りノートを通して意見や提案を出し合い、反映させている。代表者は職員の意見を重視してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の話に耳を傾けてくれ意見を反映してくれている。健康面にも留意し、定期的に健康診断を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格習得に向けた取り組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学する機会を作っただけ交流を持てることができ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族が事業所見学をされる時には、本人にもできる限り一緒に来ていただき、家族の意向だけでなく本人からの意思や意向を聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談にこられた時に、本人の状況や今までのサービスの利用状況などをお聞きして、事業所ができることを説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって最も適したサービスが受けられるよう必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活のなかで、利用者に積極的に話しかけ、言葉の由来やことわざ、地域の習わしなどを利用者から学ぶようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況を報告し、家族の希望を聞き利用者の望む暮らしを、家族と共に支援できるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に家族と出かけたり、知人や友人の面会や電話などで話をし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が楽しく参加できるようなレクリエーションを行い職員、利用者同士が関わり合えるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり関わることができるよう時間をとり、利用者の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、利用者や家族から十分に情報を収集するように努めている。入居後は、その都度本人や家族からこれまでの暮らしの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取、排泄、睡眠状態を記録し、利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人、家族の希望や意見を把握し職員全員で意見を話し合い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録に日頃の状況を記入し、ミーティングで共用してケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性をいかし、利用者や家族が希望することに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	涼しくなって戸外に出る機会が増えてきたので施設周辺のゴミ拾いなどができるよう計画している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を重視し、入居前からのかかりつけ医の受診ができるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が勤務しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い関係者から情報収集を行うとともに、早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から、家族と話し合いの機会を設け、事業所にできることとできないことの説明を行っている。事業所による支援が困難な場合でも、家族や医療機関と話し合いを行い、受入先が決まるまで支援を継続している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時に備えている。玄関にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、災害時には近隣の方からの協力がえられるように依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りなどで話し合い利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆったりと利用者に関わりを持ち、その方の思いをひきだせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の望む理・美容室でカットや毛染めなどを行っている。また、定期的に美容師の来訪がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物を提供し、食事から季節感を感じてもらえるように努めている。また、ひばり農園で採れた新鮮野菜を使って季節料理を作ったり、手作りのおやつでおやつを楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は、カロリージュースなどを飲んでいただいたり足りない栄養をとれるよう支援している。水分摂取量は記録していないが、こまめに水分補給をしている、夏場は夜間も水分補給をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や必要時に歯科検診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツを使用せず利用者ひとり一人の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。夜間も声かけ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や生活運動に配慮し、便秘予防に努めている、水分を多く摂ってもらっている。排泄表の記録により排便状況を全員が把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴できるように、その日の体調や気分に応じた入浴の支援を行っている。また、リラックスして入浴できるように一人ずつ入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠のある方には、日中できるだけホールで活動してもらえよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルにまとめ、必要な時にはすぐに確認ができるようにしている。また、主治医との連携も密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たたみ等は日常生活の中に取り入れている。また、天気の良い日には、外気浴や散歩などに出かけ、気分転換を図ることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば家族の方と外出したり、お墓参りに行ったり、お見舞いに行ったりすることができるよう支援している、春と秋にはバスに乗り全員で遠足に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人がほとんどなく、金銭を所持できないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話や手紙でのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた飾りつけや観葉植物をおいている。また、空調により、快適な温度を保って居心地よく安心して生活が送れるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下などにソファを設置し、一人でゆっくりすごしたり、気の合った者同士が過ごせる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、本人や家族に使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。また、本人の状況にあわせて居室でリラックスできるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	歩行や移動の際には、声かけや付き添い介助を行い、安全に生活が送れるよう配慮している。建物内はバリアフリーになっていて、手すりも多く設置している。		